

# 南窓

No. 62



南山<sup>中</sup>高等 学校男子部生徒自治会

# 「南窓」六十二号 目次

高等学校の部

前期生徒自治会活動報告

後期生徒自治会活動報告

生徒自治会 会長

植田 峻太 (高二E)

生徒自治会 会長

松田 東士 (高二C)

生徒自治会 副会長

森蒼 太朗 (高二D)

生徒自治会 副会長

山田 敬都 (高二B)

生徒自治会 書記

加藤 正基 (高二E)

生徒自治会 書記兼会計

マクレラン 奨音 (高二A)

風紀厚生委員長

原 悠 一朗 (高二E)

生徒自治会 書記

前田 琉翔 (高二E)

文化委員長

齋藤 武 (高二B)

文化委員長

兼田 英翔 (高二A)

体育委員長

社本 大和 (高二B)

体育委員長

細野 圭人 (高二B)

## 文化祭

文化祭実行委員長

松田 東士 (高二C)

文化祭実行副委員長

前田 琉翔 (高二E)

展示(映像)パートリーダー

中村 圭彦 (高二B)

講堂舞台パートリーダー

岩室 剛央 (高二E)

案内パートリーダー

徳田 海龍 (高二B)

装飾パートリーダー

植田 峻太 (高二E)

模擬店パートリーダー

寺本 伊織 (高二E)

16

15

13

12

11

9

7

1

2

3

4

5

6

17

19

20

21

23

24

## 中学校の部

### 前期生徒自治会活動報告

生徒自治会 会長	土岐 頼人 (中三B)	25
生徒自治会 副会長	小林 瞭太 (中三A)	27
庶務	川合 虎太郎 (中三E)	29
体育委員長	長江 遼真 (中三B)	31

### 後期生徒自治会活動報告

文化委員長	山田 光優 (中三E)	32
-------	-------------	----

### 令和5年度社会探求ゼミ優秀作品

第二次世界大戦の原因  
〈多角的な視点から平和を目指す〉

宮城 琉惺 (高二B)	37
-------------	----

### 令和4年度社会探求ゼミ優秀作品

文理の概念はどのように生まれたのか  
―大学の歴史から辿る学問の発展―

都築 勇翔 (高三B)	47
-------------	----

## 表紙

「行く末を見つめ」

安齋 昇馬 (高一D)

# 高等学校の部

## 前期生徒自治会活動報告

### 2度目の生徒会長を経験して

前期高校生徒自治会会長 高二E 植田 峻太

僕は中三の時に一度生徒会長を経験し、高二になってもう一度経験することができました。今年には生徒会長選挙には出たわけではなく議員になった後、議員の中から選出するという方法が取られました。まず僕が議員になれなければ、生徒会長になれなかったので投票してくれたクラスのみみんなに感謝しています。また土壇場で僕と副会長をやってくれる人がいなかったら選出されなかったので僕と相手になってくれた副会長にも感謝しています。

今回の経験で前回と異なるのは、他校との交流があったことです。東海高校から誘いがあり、何校も集まって生徒会の

ことや文化祭のことについて意見を交換しました。男子だけだと考えつかないようなことや、公立校ならではの疑問などがあり、大変勉強になりました。その中で他校の人に、僕らの学校は「過去に「制服の自由化」や「パンの自販機の設置」などをしていてすごい」と言われたので先輩方はさすがだと改めて感心しました。なので中学の時もそのような交流があったらまた変わっていたのかなと思いました。

僕は学校では議会の話し合いにより、暖房便座の設置を公約として積極的に行いました。すでに各階に一つずつ暖房便座が設置されていますがいつ見ても埋まっていた上、僕自身テストの時に腹を下すことがよくあり、冷たい便座で寒い思いをしていたので南山生の中にも同じような思いの人がいるだろうと思いい行うことにしました。結果としては予算の都合上今年是实现しませんでした。が、今後実現できると思います。

僕は他校との交流や、公約と向き合って取り組むことなど学生ではないとできないことを中学、高校と二度も素晴らしい経験ができたことを嬉しく思うのと同時に将来の後輩に少しでも快適な学校になったと思うてもらえたら幸いです。

## 活動報告

前期生徒自治会副会長 高二D 森蒼 太郎

前期生徒会副会長をやらせていただいた森蒼太郎です。僕は最初クラスの議員になりましたが、生徒会長選挙で立候補者がおらず、議員の中から選ぶことになり生徒会長であった植田君を誘い立候補しました。

急遽決まった生徒会であったため、公約とかは何もなく議会で決めた「トイレの便座の改良」について中心に行なっていました。南山では、暖房便座が各階に一つしかなく「冬になるとトイレの便座がとても冷たい」と南山生からのクレームが多発していました。例えば、高校1年生のフロアでは渡り廊下を渡ってわざわざ暖房便座があるトイレの方に行っていたり、他のフロアでも毎休憩時間ごとに暖房便座のトイレは必ず人が使っています。また、南山に受験しにきた小学生が少しでも心地よくテストが受けれるようにもしたいと思

ました。これらの理由で僕たちはトイレの暖房便座を増やすように要望し、各フロアに2台ずつ暖房便座を設置することを検討していただくことになりました。このような自分たちで出した公約を成し遂げることは生徒会に入っていなければ経験できなかったと思います。後期の生徒会でも公約を実現できるよう頑張ってくださいです。最後になりますが、生徒会顧問の伊藤先生や会長の植田君をはじめ協力していただいた皆様短い間本当にありがとうございました。

## 活動報告

前期生徒自治会書記 高二E 加藤 正基

前期、生徒自治会庶務を務めさせていただいた加藤正基です。今回の任期中の活動について報告させていただきます。

私の仕事はお喪に、要望書の作成でありました。といっても議会の開催回数が少なかったことなどがあり、前期で作成・提出した要望書は一枚、暖房便座の設置を求めるものでした。要望書は、学校側に生徒の意思を示す重要な文書であり、また暖房便座の設置は生徒の生活において不可欠でありましたので、作成時に多少の緊張がありました。ただ、中学でも生徒会庶務として要望書作成を担っておりましたので、特にこれと言って苦労することはありませんでした。

今期の生徒会活動で最も印象に残っているのは、他校との交流です。東海高校さんが主体となって開催された「生徒会サミット」なる会合に参加し、県内の複数の公立・私立高校の生徒会役員の方々と、主に文化祭について議論しました。校内活動のみでは得られない、様々な視点からの意見を聞くことができ、また、自分からも多くのアイデアを示すことができました。これまでに、県内高校の生徒会同士での交流はほとんどありませんでしたので、非常に画期的な取り組みであると感心しますとともに、今後は我々南山男子の生徒自治会の議論や連帯などを積極的に行っていただきたいと思っています。

最後に、僕を執行部に誘ってくれた植田会長と、共に活動してくれた他の役員の皆さんに感謝の意を表します。ありがとうございました。

## 活動報告

風紀厚生委員会委員長 高二E 原 悠 一 朗

こんにちは。前期風紀厚生委員長を務めさせていただいた原悠一朗です。前期風紀厚生委員会の活動について報告させていただきます。

前期風紀厚生委員会の半年間の活動は主に校内の清掃を行いました。(活動日数の関係上例年行っているポスター作りは行いませんでした。)

校内清掃は主に北校舎の裏や部室棟の周辺を中心に行いました。部室棟周辺はペットボトルなどのゴミや教科書やノート、部活の用意などの私物が散乱しており、毎週清掃を行っているにも関わらず、新たなゴミが次々と出てきたため、清掃を行うのが非常に大変でした。学校は生徒達を含め、先生や外部の方々などのたくさんの方が利用する場所なので生徒達自身にゴミを出したらゴミ箱に捨てるなど学校を綺麗に保つ意識を高

めていく必要があると感じました。

半年間という短い期間で学校が劇的に変わることはありませんでしたが、僕達の半年間の活動で学校がより良い場所になるきっかけになればいいと思います。委員の皆さんや先生など協力してくれた方々に感謝したいと思います。半年間ありがとうございました。

## 高校前期文化委員会活動報告

文化委員会委員長 高二B 齊藤 武

高校前期文化委員会会長を務めさせていただいた齊藤です。この文章では、前期文化委員会の活動内容を報告させていただきます。

まず、文化委員会は、生徒向けのイベントを企画し、開催することを主な活動としている団体です。毎週の活動では、委員会のメンバーが企画案を出し合い、どう実現していくかなどを話し合ってきました。

前期では、インドネシアカレー作りを開催しました。過去に行われた前任の校長先生であるダシオン先生のカレー作り企画が好評で、ダシオン先生は不在であるものの、なんとか開催したいという思いから、レシピを把握されていた和田先生を講師として呼びびして、復刻のような形でこの企画を開催させていただきました。参加者は10名で、高3生にも参加していただきました。開催日は期末テ

スト明けということもあって、テストでたまった疲れをリフレッシュするように、皆カレー作りを楽しんでいたように感じられました。

結果的に前期活動期間中に実現できたイベントはカレー作りだけであつたものの、委員会の話し合いの場ではほかにも案が出ており、それらが開催できなかったことは個人的には少し心残りでした。しかし、自分は後期も文化委員会として活動させていたでくので、その中で前期の活動内容を生かしながら、さらにもしろいイベントを企画できるように努めていきたいと思ひます。

最後に、前期文化委員会としてともに活動してくれたメンバーや、様々なサポートを施してくださつた先生にはこの場をお借りして感謝を伝えさせていただきます。拙い文章でしたがここまで読んでくださった皆さん、ありがとうございます。





## 活動報告

体育委員会委員長 高二B 社本 大和

前期体育委員長をしていた社本といいます。この活動報告では高校体育委員が前期にしたことについてかいてあります。まず体育祭の種目決めをしました。まずクラス種目としてまず綱引きが決まりその後投票で玉入れと決まり、次に個人種目として二人三脚・クラスリレー・障害物リレー・スウエーデンリレー・棒引きと決まり。部対抗リレーもありました。その後種目の内容を決めていくのですが障害物リレーで何をするかで候補が多く出過ぎて投票で決めることになりました。そして人參食いとハードルクグリとネットくぐりとダイヤ引きとグルグルバットと決まりました。そしてその後ハチマキを封筒に入れる作業をしました。そして前日の準備では中学生がテントを建ててくれたのでテントを建てる手間がなかったですが大変でした。体育

祭当日は開会式をしてから綱引きをしてその後障害物リレーをし二人三脚をしクラスリレーをして玉入れをして昼休憩でその後部対抗をし棒引きをしスウエーデンリレーをしました。体育祭を見て全種目盛り上がってよかったです。特にクラス対抗リレーとスウエーデンリレーが盛り上がっててとても面白かったです。最後に津村先生を主に体育祭当日手伝っていただいた先生方には感謝しかありません。

# 文化祭

## 後輩たちへ

文化祭実行委員長 高二C 松田 東士

「文化祭実行委員長にならないか？」この一言が僕を文化祭へと駆り立てるきっかけとなりました。2022年10月のある放課後、友人から実行委員長になってくれと頼まれました。彼は、前年度の文化祭を支えていた実行委員の1人で、そんな彼から結構ガチ目なトーンで話されたことをよく覚えています。僕は「やれたらやる」と非常に便利な言葉を使ってその場を切り抜けたのですが、正直なところその話を引き受けるつもりはありませんでした。と言うのも、実行委員は生徒会とは違い1年間任期があり、尚且つ仕事も大変そう、というイメージがあったからです。そんな役職につくなんて、めんどい；僕には荷が重いと感じたんです。ただその後、ありがたいことに他の友達や先生からも勧めてもらったので、実行委員長になることを決意しました。

今回実行委員を率いるにあたって、僕にはいくつか達成目標がありました。そのうち1つは、「後輩たちに南山の文化祭をつなげる」というものです。我が校は某ウィルスの影響で2年間、一般客を入れた文化祭の中止を余儀なくされました。この2年は、南山の伝統をぶち壊すには十分すぎるほどの時間です。去年は来場者を受け入れたとはいえ、それでも制限付きでした。後輩たちは、決り集いや全校生徒集まっつの前夜祭、模擬店などを1度も経験してこなかったんです。だから僕は彼らに「これこそが南山の文化祭なんだ！これを引き継いで欲しいんだ！」と示したいと思っていました。そのため実行委員の中枢メンバーに後輩を引き入れ、1年間がむしゃらに走ってきました。決り集会を通して、生徒に文化祭の具体的なイメージを定着させたり、みんなが心から楽しめるように前夜祭を企画したり、文化祭準備に関する細かい規定を理解しやすいように動画を作成したり…、他にも周りからは見えないような仕事をこなしてきました。その甲斐あってか、今年の展示は本当にどの団体もとてもレベルが高く、当日にめちゃ驚きました。

さて、このような活動をしてきたわけですが、正直にいうと、まあまあキツかったです笑。なにせ、かくいう僕も、完全な状態の文化祭は中1の時の一回しか経験しておらず、それを再現しさらによりいいものを創り上げなきゃいけない。プレッシャーも重く肩にのしかかり、自分の無能さが悔しくてたまらない日々が続きました。なかなか思い通りにいかないことも多い中、それでも頑張つてこれたのは、やはり支えてくれた仲間と先生方のおかげです。僕は本当に周りの人たちに恵まれたなと思つています。この場をお借りして、もう1度お礼を言わせてください。

この1年間は僕の人生史上、最も濃かった時間と言つても過言ではありません。こんなにも先生と話し込んだこと、学校にこもつたこと、動画を作成したこと、悩んだこと、全て初めてで、そして新鮮でした。「何かを自分で創り出す」とがこんなにも難しく、素晴らしいものなんだ、と気付かされました。実行委員長の役目を終えた今、僕の目には世界が少し違って見えるような気さえます。大袈裟に言っているように聞こえるかもしれませんが、僕にとつてはそれだけの価値転換がありました。どんな小さいイベントでも、

街中に貼つてあるポスターの1枚でさえ、多くの人が関わつて創り出されている。こんな普通のこと、当たり前じゃないんだと思えるようになった、と言えば分かりやすいでしょうか。

本当にたくさんの人に助けられながら、今回の文化祭を終えることができました。嫌になったことも、イラついたことも、たくさんありました。しかしそれを乗り越えたからこそ、閉会式で講堂に集まるみんなの顔を見た時、溢れる涙を止めることができませんでした。そのせいで、話したいことの半分も言えませんでした。笑。ただそれだけ本気で取り組めたこの経験は何にも変え難いものだと思つています。僕の最後の文化祭、胸を張つて全力で楽しんだと言えます。これから先、さらに良い文化祭を創つていってくれることを期待しています。

最後に、もしこれを読んでいる後輩がいるなら、伝えたいことがあります。確かに大変なことも多いし、辛い時もあるかもしれない。だけど、それでも絶対自分の経験は裏切らない。だから君も「文化祭実行委員長にならないか？」

## Boys, be ambitious

文化祭実行副委員長 高二E 前田 琉翔

皆様こんにちは。今年度の文化祭実行副委員長を務めさせていただきました、前田琉翔と申します。今年度の飛翔祭を無事に終えることができ大変嬉しく思います。また、この文化祭を実施するにあたり御支援頂いた諸先生方に深く御礼申し上げます。

私が副委員長となった経緯は松田君(委員長)の声掛けでした。その後、選挙に当選したことで、私の「文化祭実行副委員長」としての、慌ただしく、そしてあっという間の一年が始まりました。最初は不安もたくさんあり分からない事だらけでしたが、バートリーダー・副リーダー、その他実行委員のサポートのおかげで、比較的スムーズに作業を進めることができました。協力してくださった生徒の皆さん、ありがとうございました。

昨年度まではコロナ禍ということもあり、オンライン

での開催やチケット制(規模縮小の為)での文化祭となりました。その為、私達のほとんどは本来の「文化祭」というものがどういったものか正確に把握できていませんでした。しかしながら、これを逆手に取ることで数年前までの伝統的なものから脱却し、新たな文化祭を創造する事ができました。インスタ等SNSの有効活用、LINE公式アカウントの作成、スマホを使つての投票などはその代表例かと思えます。また、一学期に全校生徒を集めた決起集会にて意識改革を行うことにより、ジェットコースターやバイキングなどそれまで考えもしなかったような企画が多く誕生しました。そして、新型コロナウイルス流行前は行われていた模擬店の復活も成し遂げることができました。

この一年間は、今まで経験した事の無いことの連続でした。毎日下校時間まで作業をしたこと、パソコンで動画やシフト表を作ったこと、約1000人の注目を浴びる事、すべてが新鮮で面白かったです。同時に、実行委員の皆が様々な意見を出し合う中なかなかアイデアが浮かばなかった事、前夜祭や閉会式でのフリートークがう

まくいかなかった事など悔しかった出来事もたくさんありました。しかしそれも大切な思い出です。文化祭一週間前になって実行委員の大半がインフルになった時数人で大量の雑務をしなければならなくなった事や、模擬店のチケットを折角買ったのに文化祭当日、激務を終わらせてやっと休憩しようと立ち寄った時には既に食べ物売り切れていた事、閉会式の最後のコメントでネタをしてすべった事も今となれば大切な思い出です(笑)。まさに私の人生史上最も濃厚で、かつ重要な一年間であったといえるでしょう。この文化祭に協力頂いた全ての方々に改めて深く感謝申し上げます。また、この飛翔祭でもし実行委員というものに興味が湧いたら是非参加してください。そこで培われた知識・経験はかけがえないものとなり、今後確実に役に立つものとなるでしょう。

最後に、この一年を経て私が皆さんに伝えたいのは「大志」を抱くことの大切さです。大きな目標を掲げることにによりそれに賛同する人々が自然とついていき、目標を達成することができるでしょう。例えばそれが困難であ

ると感じたとしても希望をもつて進むことが一番重要であり、成功か失敗かに関わらず、其処に辿り着くまでの長き道は人生を変えるような重要な一頁(ページ)となるでしょう。皆さんがそのような大きな目標を見つけられることを願っています。それでは、この有名な言葉で終わらせていただきます。

「Boys, be ambitious(少年よ、大志を抱け)」

## 展示パート活動報告

展示パートリーダー 高二B 中村 圭彦

今年度、展示パートは、展示オリエンテーションや展示面談などを行ったり装飾道具の配布や白パネルの搬入など、様々な活動で展示をサポートしてきました。仕事内容が多くてとても大変でしたが、とてもやりがいのある仕事であり、無事に終えることが出来て良かったと思っています。

昨年度、同じ展示パートリーダーとして活動した時、準備開始時期が遅かったことに加え人手不足もあり、やりたい事全てが出来なかったため、今年度はその反省点を生かし、早めに行動することで余裕を持って活動することが出来ました。

来場者や模擬店などの制限のない文化祭を経験したのがコロナ禍前の中学1年生の頃で、その時の文化祭の雰囲気がとても楽しかったという事ははっきりと記

憶に残っています。だからこそ、自分がどのような事をすればその時の文化祭以上に楽しい文化祭を作れるか不安でした。正直、失敗も多くありました。ただ、その失敗を糧に自分が大きく成長出来た事は事実です。やっぱり、成功しても失敗しても何かに挑戦して、経験することはとても大切なことだと改めて感じました。

今年度の文化祭実行委員会には、高校二年生だけではなく他の学年の生徒も参加してくれました。来年度以降の文化祭も頑張つて欲しいです。

最後に、二年間文化祭を支えてくれた先生方や一緒に作り上げてきた実行委員には感謝しかありません。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

## 講堂舞台パート活動報告

講堂舞台パートリーダー 高二E 岩室 剛央

舞台パートのパートリーダーを務めさせていただいた岩室剛央です。こういった学校の仕事をしたのは、初めてだったので、不慣れな点多かったです。しかし舞台パートのメンバーたちに支えられてやり遂げることができました。

これから今年度の文化祭実行委員舞台パートの活動について報告しようと思います。舞台パートは以下の三つのことをしました。

まず、文化祭当日の舞台で演奏される団体や部活動のスケジュールを組みました。一階と二階で静かな空気が大事な団体と大きな盛り上がりがある団体を同じ時間に合わせないようにするなどを考慮しなければいけなかったのが、難しかったです。

次に講堂で舞台がつつがなく進むために常に講堂内

には舞台パート三名が待機するようにし、その指導及びシフト組みをしました。講堂の入り口でお客様の案内誘導をして外の光を入れない事を徹底しました。反省点としてはシフトに遅れてくる人が出ないような工夫をすべきでした。来年からはそこを注意して進めていってほしいです。

三つ目は文化祭の開会式と閉会式の照明の操作です。式の雰囲気ごとにどの照明をつけ、どうスポットライトを当てるかなど覚えることがたくさんありましたが式が終わり、とても盛り上がりたと言った声も掛けてもらい達成感でいっぱいになりました。

改善の余地はたくさんあって完璧とは言えませんが、無事文化祭がここまで成功できたのは初めに言った通り舞台パートに入ってくれた仲間たちがいたからこそでした。来年、手伝ってくれた後輩たちが学校を引っ張っていく番になっても文化祭は必ず成功すると自信をもって言えます。手伝ってくれた後輩たちには感謝してもしきれないです。本当にありがとうございます！

## 案内パート活動報告

案内パートリーダー 高二B 徳田 海龍

案内パートは2023年の文化祭から新しく設置され、初回の文化祭ということもあったため、事前にやる必要のあることは自分たちで一から考える必要があった。案内パートは入り口付近に案内所を設置し、行き先のわからない来場者に場所を案内することが仕事だった。今年から各クラス5人ずつ生徒を派遣してもらい、案内パートと受付パートに振り分けてシフトを組み、仕事してもらった。文化祭で生徒を派遣してもらったのは初めてのことだったため、シフト通りに来てくれるかが当日まで最大の不安であったが、シフト通りに来てくれた生徒が多く、案内パートとしては非常に安堵した。

今後の学園祭にも使えるように、学園祭前に行ったことはマニュアルの作成や講堂の入り口の標識の印刷

である。そのほかにも年によって企画が違うため来年からも毎年やる必要のあることは、掲示用の学校の地図や階段の踊り場に貼る矢印付きの案内板の印刷である。案内板は実際にその場に行つて確かめる必要があったので想定外の時間を要した。

文化祭の当日に模擬店のチケットを買う人の列が物販のスペースを圧迫したことから、物販を案内所に移し、案内パートで物販を行うという変更が急遽あった。文化祭以前にも想定外のこと何度か起こったことで臨機応変に対応する力が必要だと強く感じた。

また、僕には飛翔祭の公式Instagramを更新する仕事もあった。僕が今年投稿したことは各団体の展示内容の紹介、文化祭までのカウントダウン、学校紹介だった。時間があれば男子部の受験を考えている小学生や保護者の参考になるよう、もう少し学校紹介に力を入れたかったが残念ながら今年はできなかった。各団体の紹介は団体数が非常に多いため前もって投稿を作っておき、予約投稿の機能を使うことを強くお勧めする。



初回の案内所は褒められたものではないとは思うのだが、大きな問題が案内パートで起こることなく文化祭を終えることができた最大の理由は、副パートリーダーや各クラスから来てくれた生徒達、関わってくださった教員方のおかげであると強く感じている。また人をまとめる立場にあまり立ったことがなかった僕を、案内パートのパートリーダーに誘ってくれた委員長にもとても感謝している。今年の文化祭で非常に貴重な経験ができたことを実感している。

後輩達にはこれほど貴重な経験ができる機会はなかなかなく、文化祭が終わった後に感じられる達成感はなく、忘れられないものになると自分は感じているので、是非来年以降の文化祭に積極的に参加し、来場者を楽しませられるように力を発揮して欲しい。

## 装飾パート活動報告

装飾パートリーダー 高二E 植田 峻太

僕ら装飾パートはカウントダウンボード、門の制作を行いました。門の柱を正六角形にしたために色々と計算をしたり測って木材を切り出したりするのが大変でしたが、とても見栄えの良いものとなりました。

反省点としては、予定ではオブジェも制作予定でしたが、スケジュール管理ミス、副パートリーダーとの連携の不十分、制作の取り掛かりの遅れなどによって完成に間に合わずに終わってしまったのは心残りです。なので来年以降に期待したいと思います。

今回の活動を通してパートリーダーと副パートリーダーの連携がものすごく大切だと感じました。また、パートリーダー、副パートリーダーだと決めた後にその後の自身の予定があるからといってパートの仕事を疎かにするような人は向いていないと感じました。絵

心や工作意欲がどれだけあっていても下級生をまとめる力や予定を立てる能力が乏しい人は向いていないとも思いました。予定はどれだけ早く立てても全て予定通りに行くわけではないから、臨機応変力が求められます。下級生なしでは成し遂げることができないから来年以降も夏休みが始まるまでに下級生を集めて夏休みが終わるまでにある程度終わらすことができるとう月に入ってから余裕ができるのかなと思いました。

たくさん改善点や反省点はあるものの、総じて楽しかったです。中学一年生から高校二年生までたくさんの人と関わって一つのものを作り上げるという経験ができたのは本当に良かったです。来年以降も今年手伝ってくれた後輩たちを中心として素晴らしい装飾をしていってほしいなと思います。最後にパートに入っ

## 2023年模擬店パート活動記録

模擬店パートリーダー 高二E 寺本 伊織

2023年度の模擬店パートリーダーを担当させていただいた寺本伊織です。模擬店パートは四年ぶりに設置されたため、経験者がいない中、来場者の方々や在校生の方に楽しんでいただくことを目標に手探りながら活動してきました。ここまで支えていただいた関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

今年度は店舗側でも模擬店経験者がおらず、材料の発注回数から調理に必要な時間、お客様への対応の仕方などわからないことが数多くありました。そこで我々も微力ながら裏側からサポートさせていただきました。クラスの模擬店に携わった人たちが積極的に試食会や衛星講習会に参加したり、テント設営の手伝いをしてくれたおかげで今回成功させることができました。

また、後片づけまでしっかりと行ってくれた為、来年もきれいに備品を使うことができそうです。ご協力ありがとうございました。

今回の文化祭の成功には模擬店の盛況も少なからず要因の一つとなっていると思います。今年度の反省点として一つ挙げるのであれば、材料の発注数が少なく、昼頃には売り切れてしまった団体も多くあったため、来年度からは発注数増加を検討しても良いかもしれません。

当日発生したアクシデントや反省点なども多くあると思いますが、それを踏まえて来年以降に活かして今年以上に盛り上がる文化祭にしたいだけだと幸甚に存じます。

文化祭実行委員は、確実に貴重な経験をみて成長することができる場所だと思えます。今年度の模擬店や、クラス企画に携わって楽しかったと感じた人は是非来年度の文化祭実行委員会に入って文化祭を成功に導いてください！

## 後期生徒自治会活動報告

### 誰が為の生徒会

後期高校生徒自治会会長 高二C 松田 東士

2023年度後期の生徒会長を務めさせていただきました。高校2年生の松田東士です。今期の生徒会活動を振り返って一言で表すなら「短い」ですかね。10月に生徒会長に就任し、気づけばもう一年が終わろうとしています。本当にあつという間に任期が終わってしまいました。三学期に至っては、修学旅行や模試などが重なり、議会が合計4回しかないという超タイトスケジュール。満足のいくような活動ができなかったというのが正直なところです。

私は中学3年生の時にも生徒会長を務めており、そこから2年が経った今、過去の反省を活かしながらよ

り効率的に公約をこなしていく予定でした。しかし、現実はそう甘くありませんね。主に3つの議題を同時進行で話し合ってきましたが、結局提出できたのは「クイックルワイパーの導入」についての要望書、1枚にとどまりました。(他の2つの議題については執行部メンバーが触れてくれることに期待し割愛)この公約は、自分のクラスの不潔さが極まっていたことから出た発案でしたが、なかなか建設的な議論を重ねてこられたのではないかと思っています。クイックルワイパーの有用性を示すため、実際に普段の掃除で使用してみたりしましたが、その結果、大袈裟じゃなく本当に想像の5倍以上の汚れが取れ、教室がいかに汚いか再確認できたことは記憶に新しいです。なぜこうもすぐ床が汚れるのか、思い当たる節が多すぎるのは言うまでもありません。先生方との話し合いが学期末になっってしまったこともあり、これが試験的に運用されるのか、却下されるのか、私の与り知るところではありませんが、少なくとももう少し真面目に掃除をするべきなのは明らかでしょう。

さて、話は変わりますが、今回の任期の半ばごろに、とある先生から「生徒会は学校側に要望ばかりしているけど、もっと主体的な活動をしてほしいんじゃないか？」というご意見をいただきました。確かに私が知る生徒会は、私も含め、何とか公約を捻り出してそれが明らかに無理なことでもとりあえずやってみる、という流れが多かった気がします。なにせ私たちは非常に恵まれた環境におり、現状の学校生活に対する明確な不満といえば、共学でないことくらいですから（あくまで私の周りによくつぶやかれていることであり、私の意見ではありません）、公約を考えるだけでも一苦労なのも領けます。その結果、生徒会は活動した結果を残すことができなくなり、多くの生徒はそもそも生徒会が何をしているかさえ把握できず、関心がどんどん薄れていく、という負の連鎖に巻き込まれてしまっています。しかし周りに目を向けると、なるほど、生徒会主体で著名人を招いたり、文化祭で銀行と直接やりとりしたりと、魅力的な企画を催している高校がたくさんあります。これは完全に盲点でした。残念ながら、私たちには

時間と気力が足りず、新しい企画を立ち上げることは叶いませんでしたが、それこそが南山の新しい生徒会の進むべき道なのではないでしょうか。「学校に求めるばかりが生徒会の仕事じゃない。自ら動き、自らを変え、自ら創りだす」これが今期の生徒会活動を通して得た私の教訓です。もし生徒会を目指していて、かつこの文章を読んでくれている稀有な生徒がいるのであれば、生徒会とは誰のため、そして何のために存在しているのか、このことについて深く考えてもらえると嬉しいなと思います。

以上で活動報告を終わりたいと思います。ご精読ありがとうございます。

## 「叶えたい公約」を公約に

後期生徒自治会副会長 高二B 山田 敬都

僕は次期生徒会に立候補を考えている人に聞きたい。

「普段の学校生活をより良くするために掲げたい公約とは何か？」とおそらく、パッととは思いつかないだろう。強いて言えば、「スマホの使用許可」などだろうか。つまり、この質問に答えようとするとき今すぐには実現が難しいことばかりが思いつくのである。では、どのような公約を掲げればよいのだろうか。

僕は、生徒会の認証式での濱口先生の話が心に残っている。それは、「後世に受け継いでもいいから大きな公約、実現の難しい公約に挑戦してほしい。」という趣旨のものだった。公約を考える際にこのような公約をどことなく遠ざけていた僕には、とても刺さるお話だった。確かに、この学校の「制服撤廃」も何世代にも渡る生徒会の活動の成果である。しかし、僕も中高で前期と後期の生徒会を経験し

てみて、やっぱり時間の足りなさで公約を実現する難しさは痛感した。では、今回僕たちが公約に掲げた現実味がありそうな「クイックルワイパーの導入」などに走ってみるのはどうだろうか。「スマホの使用許可」に比べすぐ実現するかもしれないし、それにより無事公約を達成したという安心感が得られるかもしれない。しかし僕は今回「クイックルワイパーの導入」に取り組んでみて、どうも自分としては妥協した感があり、あまり達成感が得られなかったのである。むしろこの公約の裏でひそかに進めていた「漫画の設置」に取り組んでいるときの方が本当にやりたいことができてとてもワクワクしたのである。

これらのことから僕が伝えたいのは、要は妥協して他の実現できそうな公約、「実現できそうな公約」を掲げるのではなく、今すぐには実現するのは難しいかもしれないけれど本当にやりたいと思える公約、「叶えたい公約」に挑戦してみてもどうかということである。一朝一夕には結果は出ないかもしれない。しかし、その実現のプロセスの一部を担うことだけでも大きな意味を持つに違いない。

## 限られた時間で何をするか

後期生徒自治会書記兼会計 高二A マクレラン奨音

2023年度後期の生徒会執行部書記、そして会計を兼任させていただきました。高校2年のマクレラン奨音です。今期はクイックルワイパーの導入を主な公約として掲げ、それを実現すべく議論を重ねて参りました。しかし、修学旅行やその他行事等もあり議会の回数があまりにも少なかつたため、十分な準備ができなかつたというのが率直な感想です。私は松田会長や山田副会長に同行して要望書の提出に立ち会ってきましたが、要望書をもっと時間をかけて磨くことができなければ、それを受け取った濱口副校長先生の半信半疑だった表情も、もう少し納得したような明るいものだったかもしれません。10月からの短い期間で公約について議会を領かせ、校内アンケートや実証実験等を重ねてから完璧な要望書を完成させるには時間が足り

ず、その間も成績や部活のことも念頭におく必要があり、この3点を両立させることの難しさを痛感しました。そのせいか、1995年に実現したような「制服の自由化」といった大きな公約に手を出すことのハードルが高いように思います。無論、それは多くの代に渡って繰り返し強い要望を学校側に伝えたことの結果なのですが、自分たちの意思や仕事をうまく次世代の執行部に引き継ぐことが難しく、先輩・後輩間のコミュニケーションをより円滑なものにするのも一つ課題としてあると思います。しかしながら、「今年実現しなくても近い将来で実現されれば」というようなマインドで、世代を超えて協力し合い、難しい公約を掲げて実現させてくれる人物が現れるといいなと強く思います。後輩たちにはこの学校をより良くするためにも、大きなものに向かって地道に努力してくれると心から期待しています。

## 「自由」の獲得

後期生徒自治会書記 高二E 前田 琉翔

この度後期生徒自治会書記を務めさせていただいた前田琉翔です。約五か月間という短い期間でしたが、その間生徒会が掲げた公約とその結果について報告させていただきます。

この後期において我々は議会にて「クイックルワイパーの設置」に重きを置いて話をすすめていきました。普段、私たち生徒は教室を箒でほぼ毎日掃除しているはずですが、教室内を歩き回ると白い粉がつき大変滑りやすくなっています。これが俗に言う「NANZAN POWDER」と呼ばれる謎の粉です(恐らくチョークの粉…)。この粉は一応雑巾でとることは可能ですが、ただでさえ面倒臭がりな南山生にとってこの行動を起こすのは至難の業です(笑)。そこでクイックルワイパーを使用することで効率よく床を綺麗にすることを考えました。

この公約の実現の為に、まずは情報収集によって現状を確認する作業から始まりました。各クラスに「雑巾がけはどのくらいの頻度で行っているか」「クイックルワイパーは必要か否か」等のアンケートを行い、その結果、半数以上が「雑巾がけは行っていない」「クイックルワイパーは必ず欲しい」との意見でした。またTeamsにて高校一・二年生(約400人)に、「クラスの床は清潔か」「飲み物が床に零れているのが放置されているのを見たことはあるか」等の質問を投げました。最終的に回答があったのは115人とどまりましたが、その約七割が「クラスの床は清潔でない」「放置されているのを見たことがある」という意見でした。このアンケート結果に正直唖然としましたが、それと同時に改めてクイックルワイパーを設置する事の有用性を確認できました。

また、クイックルワイパーがクラスの掃除においてどれだけ効果を発揮するかを検証しました。普段の掃除と同じく箒・モップで掃除を行った後に検証しましたが、それでも大量の埃や粉がシートに付着するという結果でした。やはり箒やモップのみでは床に溜まるゴミを



集めきれない事、そしてクイックルワイパーが教室掃除において大いに効果を發揮する事が実証されました。

以上の意見・検証を踏まえて要望書を作成し先生方に提出しました。この案が通ったかは現時点では不明ですが、もし通れば格段に校内の清潔さが向上する事でしょう。

そして、もう一つ「図書館での漫画の貸し出し」という公約も少しずつ進めていきました。ドラゴンボール・ワンピース・名探偵コナン等の漫画は海外でも人気のある日本のサブカルチャーですが、これらを読んだ事がないという日本人は少なくないでしょう。この後期では残念ながら時間が足りませんが、来年度以降会長・副会長への立候補を視野に入れている優秀な生徒には是非この公約に取り組んでもらいたいです。

生徒会という組織は殆どの生徒にとっては無縁と感ずるでしょうが、校内において重要な組織である事間違いありません。「自由及び権利は、国民の不断な努力によって、これを保持しなければならない」と憲法第十二条に記載がありますが、この南山男子部においては

「生徒会」によってこの学校の自由が獲得し守られているといっても過言では無いと私は考えます。もし興味を持ったのであれば、是非生徒会に入りこの学校の更なる「自由」の獲得に貢献してください。

最後になりますが、半年間支えて下さった皆様に感謝申し上げます。

## 高校後期文化委員会活動記録

後期文化委員長 高二A 兼田 英翔

後期文化委員長を務めさせていただいた兼田英翔です。今回は後期文化委員会で企画したイベントを2つ報告したいと思います。

まず1つ目は、2学期末に行った「アップルクランプル作り」です。文化委員会顧問の長久保先生直伝の英国式の本格的なアップルクランプルを作りました。何かお菓子作りしてみたい、という案から始まったこの企画は長久保先生の協力のもと開催にこぎつけることができました。高校3年生の皆さんにも忙しい中たくさん参加していただき、賑やかな会となりました。

2つ目の企画は、3学期末の高校スポーツ大会の後に行われた「ガトーシヨコラ作り」です。この企画は、カフェダイニング花音のシェフである佐々木シェフをお招きして開催することができました。佐々木シェフに

は各テーブルをまわりながら直接ご指導していただくことができ、本格的なガトーシヨコラ作りを楽しむことができました。卒業をしたばかりの高校3年生にもまた参加していただき、異学年同士の交流もありとても楽しい時間となりました。

最後に、2つの企画で協力をしていただいた長久保先生と佐々木シェフにこの場を借りて感謝を伝えたいと思います。短い文章ですが、ここまで読んでいただきありがとうございます。

## 後期体育委員会活動報告

後期体育委員長 高二B 細野 圭人

初めての委員長ということもあり、しつかり後輩や同級生を纏められるか、委員長としてはたらき役に立てるかという不安や心配を抱えていましたが、無事体育委員長を成し遂げられて良かったです。後期体育委員の活動は体育の授業時の体操や先生の手伝い、メインはスポーツ大会の運営であり毎週水曜日のミーティングで意見を出し合いより多くの人が楽しめるスポーツ大会を目指していました。競技はたくさんの方が好きなスポーツを選べるように、様々な部活に所属している人が活躍できるようにしたかったので、例年通りのフットサル、バスケットボール、ソフトボール、ドッジボールに決定しましたが、去年のルールをベースにより試合が円滑に進行でき楽しめるようにルールを改善しました。当日はいつもより早く登校してリーグ・トーナメント表や総合得点

表の貼り出し、ピブスやボールなど試合で使う道具を用意しました。そして朝の祈りの後に委員長として注意事項などを含めた一言を放送しました、教頭先生に見守られる中かなり緊張しましたが嘔むことなくできて安心しました。試合自体は全ての競技に大きな怪我が出なく良かったです。前期は体育委員ではありませんでしたが、毎週ミーティングの機会を設けてくださったり、行事前・当日の準備や片付けやその他諸々をご指示していただいた津村先生を主に体育祭やスポーツ大会に協力してくださいました先生方には感謝の念に堪えません。学年最後のクラス行事、高校2年生にとっては最後のスポーツ大会だったのでクラスが一丸となり楽しむことができましたと思います。スポーツをみんなで協力し勝利を目指し楽しむことは友人との友情を強くし、普段あまり喋らなかつたりコミュニケーションを取ってない人とも交流する機会、仲良くなるきっかけとなり、仲間と協力し楽しんだ経験は一生の思い出になると感じました。後期の委員会は前期に比べて活動期間が短かったです、充実した南山生活の1ページとなりました。

## 中学校の部

### 前期生徒自治会活動報告

#### 憧れになるという事

前期中学生徒自治会会長 中三B 土岐 頼人

「生徒会長」このフレーズを聞いて感じるものは人それぞれだろう。ある人は学校のリーダー、とある人は優等生の真面目、僕にとつては憧れの象徴であった。まづ、なぜあこがれるようになったのかを書こうと思う。

今から6年前塾が主催していた「南山中学校に行ってみよう」という企画に参加をした際当時の校長先生が誇らしげに南山生徒会によって行った制服の自由化を語っていた事が当時の自分にとつては大きな衝撃とともに自分も生徒会長になっていろんなことを行いたいと思ったのが憧れになった理由です。それから南山

での学校生活を夢見て受験勉強にいそしみ無事合格しこのように生活しています。

そして三年生になるタイミングで意を決し、生徒会選挙に立候補し憧れである生徒会長の座を勝ち取るこができました。しかし、憧れになった時の感触は思ったよりしっくりこなかったのを覚えていますが、多分それはあまりにも自分の中の生徒会長と自分のイメージが合わなさ過ぎて実感が湧かなかつたんじゃないかなって思っています。まあただしかしもちろん先生や生徒は自分の事を生徒会長として扱ってくれるのでこのギャップに苦しめられました。自分があこがれたことは確かに他の人にとつても「憧れであるし憧れになれるような存在」である、ここで初めて憧れになることの重さが分かったのです。実を言うと生徒会長になった後最初の1月はとにかく焦りとプレッシャーから仲間の意見を半ば強引に振り切り生徒会活動を行い見事に失敗しました。身体的にも心身的にも限界が来た頃僕を救ってくれた事がありました。大切な人Nさんがそんな僕を見て、僕に、「最近の君は常におもりを

背負って崖沿いを歩いていていつ居なくなっちゃうかわかんなくて不安になるし君らしくない。」と本気で叱ってくれて初めて自分が憧れによって押しつぶされてしまっているんだって、それからは仲間を頼り仕事を振っていつて自分と憧れを上手いこと合わせていき今では自分にとっての生徒会長だったと誇らしげに語れます。憧れとは、結局理想道理には元々行かなくて憧れた姿に自分らしさを加えてなるものなんだと実感しました。

最後に、ここまで自分語りをしてきましたが本当に伝えたい、残したいものはここからです。今回生徒会長になって感じたのは本当にたくさんの人にたすけられているということ、選挙に出るにあつて最初に声をかけて相棒として共に過ごしてきた副生徒会長である小林をはじめとした執行部のみんな、議会でたくさん意見してくれた生徒会メンバーたち、生徒会顧問として毎週のようにアドバイスをくれた和田先生、様々な公約を行ううえで助言をくれた先生たち、大切なことを思い出させてくれたNさんをはじめ友達たち、あま

りにも仕事が多すぎて手伝ってくれた元生徒会長さん、そしていつでも支え続けてくれた家族。僕の名前は人に頼られて、人に頼れる事ができる人になってほしいという思いを込められて頼人と名付けられました。今のところ人に頼る事は出来ているんですけど頼られるのはまだまだなので気長にそれをあこがれとして頑張っていこうと思います。

最後の最後に全ての支えてくれた人達に感謝します。ありがとうございます!!

## 「名前はまだない」最終号

前期生徒自治会副会長 中三A 小林 瞭太

皆さん、こんにちは。「名前はまだない」という名前の生徒会通信に見覚えのある方はいますか？その生徒会通信を書いていた前期副会長の小林瞭太です。読んでない方も多いと思うので(笑)、僕がどのように生徒会活動に取り組んだかについて書きたいと思います。

僕は中学1年生の時から議員として生徒会活動に参加するうちに、いつか執行部のメンバーになりたいと思っていたので、土岐君と共に立候補することに決めました。前期は5組の候補者がいたため、当選した時には嬉しい気持ちと不安な気持ちでいっぱいでした。

僕たちは大きく分けて3つの公約の実現にむけて努力しました。1つ目が昼休みの体育館の開放、2つ目が購買の充実、3つ目がスマホの一部制限解除(文化祭やそのほかの行事の時に)ですが、今回は1つ目の公約に

ついて述べたいと思います。はじめは執行部内や議会で体育館を開放したときのデメリットやその対策を議論していましたが、生徒目線の議論だけでは見えない点があり、体育科の先生方にご意見を伺いました。すると昼休みに開放している中庭に食べ物のごみがよく捨てられていることを指摘されました。ごみを捨てているのは一部の生徒だけれど、生徒全体の信頼が失われてしまうことに気が付きました。「先生は生徒を信頼する。そしてそれに応える南山生」という男子部の校風が……とシヨックを受けた僕は、まずは先生からの信頼を取り戻すべく何ができるか考えました。まずは『ポイ捨てしないで』や『中庭で飲食しないで』といった内容のポスターを最近話題のAIで作り、協力を呼びかけることにしました。ポスターを貼ると同時に生徒会通信でも、先生からの信頼を得ることの大切さを訴えました。すると中庭にあったゴミの数がそれまでより減ったように感じました。小さいことですが、効果があったんだなと嬉しかったです。今でも図書館前と中庭に貼ってあるのでぜひ見てください。その後は開放

した場合のルールなどについて指導部の先生と話し合いを重ねましたが、時間が足りず公約の実現には至りませんでした。議会や、執行部メンバーでたくさん話し合いましたが、いざ要望書にして学校に提出しようとしても、先生方と僕たちが考えていることが乖離していたことがよくありました。僕らは合計で10回近く様々な先生方と、意見交換をしましたが、それでもまだ足りなかつたと思っています。半年の任期は短いので、早めに取り掛かること、先生方とたくさん話すことは大切だと思います。

任期の最後には、9月頃に発生したモロッコ地震とリビアの大洪水のために募金活動をしました。3学年の議員の協力もあつて3日間でなんと64203円集まりました！執行部のメンバーとモロッコとリビアの国旗を段ボールで作ったのはいいと思います。募金してくださいました方々、ありがとうございます。

結果として3つの公約は未完成に終わってしまいました。が、失敗を重ねながら挑戦できたことはいい経験になりました。組織とはどういうものか、その中でどう物

事をすすめていくかなど多くを学べました。この経験を生かして高校でも生徒会活動に携われればと思っています。ちなみに今期のデータはすべて中学生徒会のパソコンに入れておいたので、今後、僕たちの活動を引き継いでくれる方がいたら、是非活用してください。半年でしたが、支えてくれた執行部のみんな、議員や委員会のメンバー、先生方、本当にありがとうございました。

## 生徒会庶務報告書

前期生徒自治会庶務 中三E 川合虎太郎

皆さんこんにちは前期生徒会庶務を務めさせて頂きました川合虎太郎と申します。私は中学二年生前期も生徒会を務めさせて頂いた経験があるので今期は私は二度目の生徒会となったのですが、残りの執行部のメンバーの方々は今回が初の執行部員という事なので最初は経験者としてリードして見せようと思気揚々としていたのですが、会長の土岐君、副会長小林君のユーモアと聡明さ、野尻君、行平君の実力を見て私がしゃしゃりする事はない思い、後ろにてサポートに回る事に徹した自分であったと今になって振り返ります。

さて、ここで本当は、何をした、何やりたかった等を語るのが普通であるのでしょくけども実際のところ私を中心となりやった事は今期一つたりともありませんでした。と言うのも先ほど申し通り他のメンバー

が余りにも実力があるので僕は経験を生かしたサポートが最も役に立てると考えたが為です。例えば今期実施した政策の内募金活動などでは、校門の前にも募金活動を行なおうとしていた為、私は自転車通学者や教員の方々や飲み物を買ってきた人にも募金してもらえるように自販機前でも募金活動をするべきだと提案したことがあります。これは中学二年生の前期、内ヶ島君が会長として行ったウクライナへの募金の際自販機の前に設置した募金箱に校門前の募金箱より多くの金額が集まっているのを体験したことがあるからこそ考えることの出来たアイデアだと思います。その分増えた金額によって助けられる募金先の人々が増えたと思うと多少はこの経験とそれによって思いついたアイデアとそれを発表できた生徒会員庶務という立場は役に立っているのかなと確信はないながらも感じます。僕は元々生徒会に入るつもりはありませんでした、只副会長の小林君が生徒会員を経験したことのある事を理由にやってくれないかと誘われました、

正直に言いますと迷いました。部活で忙しい中その職



務を果たせるか心配であった為です、しかし私が正直に部活で忙しい為あまり執行部会議などには出席出来ないかも知れないと小林君に伝えるとそれでも大丈夫と言ってくれました。そこで私は小林君の寛容さに感謝し、その期待に応え出来る限り生徒会に尽くそうと思いました。議会の場でも余り積極的に発言する事なく、生徒会でも中心ではありませんでしたがその後は告知ポスターの制作募金活動など自分のできる範囲内で尽力致しました。最後に生徒会のメンバーで終わったことを記念して遊んだ時にもこんな僕を生徒会執行部メンバーとして受け入れてくれた小林君を始めとしたメンバーには本当に感謝を申し上げます。

私は生徒会執行部庶務を通して普通では出来ない濃い体験をさせて頂き、また、自分の力や時間の限り精一杯自分の職務を全うすることの大切さを学ぶことが出来ました。改めてこの場を借りて頂きますが、私を受け入れてくれた生徒会メンバーの皆さま、一緒により良い学校の為に頑張つて貰いました皆さま、また、それを支えて頂きました皆さま本当にありがとうございます

した。このような貴重な体験を、出来たことを今後に活かしていいけたらと思います。関わってくれた皆さま本当にありがとうございます。

## 前期体育委員会委員長 中三B 長江 遼真

中学体育委員会の行っていた主な仕事は体育で毎授業見本でクラス全員の前での体操と体育祭に向けての準備と当日の仕事でした。体育祭の準備では、五月頃から進めていて、一番時間がかかったことは、やはり種目決めでした。去年のものを参考にしたり各々インターネットなどを活用して盛り上がるような競技を探したりまた、当日も時間に限りがあるのでどれくらいの競技数が行えるのかも考慮して考えをすすめています。なので八月上旬まで難航しており、最終的に、中学三年生全員で競技を決め、それが賛成かどうかを中学二年一年に投票してもらうことで決定しました。次にルールの確認で細かい反則やおおよその手順などを決めました。地域によって違ったりして少し手こずっていましたが、無事に顧問の先生がまとめてひとつにしてくださいました。そして、当日は、朝七時から

みんなでテントを立ててテントを止めるおもりを学校からグラウンドまで計30個ほど運びました。そして当日選手宣誓から始まりました。僕は一ヶ月前から考えていました。失敗しないか不安でしたが何とか成功して良かったです。そしてなんとか問題がおきずに終わることが出来ました。今回、僕が体育委員長になってみて思った事は、人は助け合う事が大切だと、感じました。なぜなら、体育祭は一人では準備できないし、当日もやはりみんながいたからこそ成功したものだと思えました。

## 後期生徒自治会活動報告

### 中学後期文化委員会活動報告

後期中学文化委員会委員長 中三E 山田 光優

後期中学文化委員長を務めさせていただいた山田です。この文章では、後期中学文化委員会で行った企画について報告したいと思います。

1つ目は、オーストラリア留学生と行ったお寿司作りです。この企画は、オーストラリアの Shore という学校から来た留学生と南山生がお寿司作りを通して交流をするというものです。お寿司作りを通して、お互いの国の文化の違いや英語でコミュニケーションを知ることができました。お寿司作り後には、けん玉などの日本の玩具をオーストラリア留学生と楽しみました。

2つ目は、生徒と教員に行ったスマホ・タブレットに

ついてのアンケートです。この企画は、生徒のスマホの利用状況や、生徒と教員の現状のスマホ利用に関する意見を知り、今後生徒がスマホやタブレットを活用し、より学習しやすい環境を作ることを目的としたものです。このアンケートを通して、教員によってスマホの利用許可の考え方が異なっており、今のスマホ・タブレットのルールは適切に使える生徒にとっては制限が厳しいことがわかりました。

最後に、活動に協力していただいた全ての教員・生徒の方、文化委員のメンバーにこの場をお借りして感謝を伝えさせていただきます。短い文章ではありませんが、最後まで読んでいただきありがとうございます。



**参考文献**

渡辺惣樹『誰が第二次世界大戦を起こしたのか』((草思社、2020年))

秋元英一『世界大恐慌 1929年に何が起きたか』((講談社、2009年))

らにブロック経済を展開したイギリスやフランスからの支援は期待できず、アメリカは自国の立て直して手一杯、ソ連は計画経済によって支援を行っていなかったため、ドイツ、イタリア、日本は自力での現状打開をせざるを得なくなった。そして、三国は他国を侵略することで自国の経済圏を拡大し、経済状況の改善を図った。

### 結論 —多角的な視点から平和を目指す—

他国を侵略することはあってはならず、言うまでもなくドイツ、イタリア、日本がそれを行ったことは悪だろう。だが、それに至る経緯を考えれば、アメリカ、イギリス、フランス、ソ連などが行った自国優先の経済政策もまた、他に与える影響を十分考慮しなかったものである。つまり、どちらの行動も同情の余地があるものではあるが、自国を優先したものであり、一概にどちらが正義か悪かは判断できない。にもかかわらず、やはり枢軸国は悪で連合国が正義という印象は根強く、「悪の枢軸」という言葉があるようにそのイメージがついてしまっている。これがいわゆる「歴史は勝者によって作られる」というものだろう。これの最も重要な問題点は、同じ流れが第一次世界大戦後にも見られたことである。さすがに当時ほど敗戦国は蔑ろにはされていないが、現在の国際社会では当時連合国だった国が上に立っていることが多い。さらに、大国の自国優先の行動も時折見られ、ロシアによるウクライナ侵攻や、ガザ地区の紛争でアメリカがウクライナよりも自国に利益のあるイスラエルを支援していることなどが挙げられる。周囲との調和だけを考えていては国際社会が成り立たないが、大国が自国の利益を優先してしまうとそれに追随する国が出てしまうかもしれない。

戦勝国が敗戦国の上に立ち、戦勝国がその後の国際社会を創り上げていく状況は、第一次世界大戦から何も学んでいないように思える。実際今や大国間の均衡が崩れつつあるように思える。これを打開するために必要なことこそ、歴史を多角的な視点から評価することだろう。今回の例で言えば、戦争に勝てば正義、負けたら悪という単一の視点から戦争を評価するのではなく、敗戦国から見た相手、戦勝国から見た相手、世界情勢、経済状況、軍事力など様々な視点から評価するべきだ。それによって見えた新たな観点は、平和を実現するための鍵になるだろう。

掌握後はユダヤ人への差別を徹底するなどして国民の団結力を高めた。さらにドイツは国際連盟から脱退し、イギリスの宥和政策によってドイツは勢いづき、ヒトラーはポーランド侵攻を決断した。こうしてドイツは戦争に急速に向かっていった。

一方イタリアは、第一次世界大戦の戦勝国となったが、戦争で得た利益よりも損失のほうが大きく経済が不安定になり、農民や労働者の反乱が起きていた。そんな中現れたベニート・ムッソリーニ率いるファシスト党は反乱を鎮圧し、革命を恐れていた支配者層や中産階級からの支持を得た。そして政権を握ったムッソリーニはエチオピアに侵攻し、国際連盟を脱退、日本、ドイツと日独伊三国同盟と結び、イタリアは第二次世界大戦に参戦した。

そして日本は、第一次世界大戦の敗戦国ではなかったが、第一次世界大戦による好景気が終わり、世界恐慌によって経済が悪化した。また日本は、第一次世界大戦のころから中国大陸や太平洋地域に領土を拡大することを目指しており、国内の混乱で軍部が政権を握ったこともあり、満州事変、日中戦争など大陸進攻を開始した。さらに日本は日独伊三国同盟に参加したことで枢軸国として第二次世界大戦に加わった。

前述の三国による侵略の理由は、どれも経済不況を打開するためという点が共通している。だが、世界恐慌によって全世界で経済危機が発生したにもかかわらず、なぜ連合国側は経済を立て直すことができたのか。まずイギリスやフランスは、植民地を利用してブロック経済を展開した。ブロック経済とは、同じ通貨を使う自国と植民地のみで貿易をし、他国を自国経済圏から締め出すことで他の経済圏の影響を受けにくくする政策であり、これにより英仏は経済を立て直した。また、アメリカはニューディール政策を実施し、政府が経済に介入することで経済の活性化を図った。さらにソ連は社会主義国であるため計画経済を採用し、国家が経済を綿密に管理することで恐慌の影響を防いだ。そして中国は農業中心の経済だったため、影響がそもそも少なかった。

しかし、ブロック経済は十分な規模の植民地を持っていなければできず、敗戦国となり植民地を奪われたドイツや、植民地を持っていても小規模であったり資源が不足したりしていた日本、イタリアは、このような手段をとることはできなかった。さ

## 令和5年度社会探究ゼミ優秀作品

# 第二次世界大戦の原因 ～多角的な視点から平和を目指す～

高二B 宮城 琉惺

### 序論 — 第二次世界大戦の印象と影響 —

歴史を多角的な視点から評価することは、我々が自身のアイデンティティを理解し、未来について考えるために非常に重要であり、特に歴史の分岐点となった大きな出来事は慎重に考察しなければならない。その中で第二次世界大戦は、近代で最も大きな歴史的出来事の一つである。この戦争は、日独伊の枢軸国と米英仏露中の連合国が戦い、連合国側が勝利した戦争であるが、枢軸国の侵略を連合国が止めたという印象がある。枢軸国が周辺諸国を攻撃したことは間違いないが、枢軸国が悪で、連合国が正義というイメージがついてしまっている。連合国が国連安保理の常任理事国を占めていたり、国際機関の中心メンバーにも軒並み参加したりしているのはその表れだろう。だが当時、枢軸国の行動は完全に悪だったのだろうか。また、連合国の行動は正しいものしかなかったのか。本レポートでは、第二次世界大戦の経緯を再考し、現代に与えた影響を考察しようと思う。

### 本論 — 大戦の経緯 —

まずは枢軸国側から見ていく。戦争の発端は、ドイツがポーランドに侵攻したことだが、これにはいくつかの理由がある。まずドイツは第一次世界大戦の敗戦国として、領土の再編、没収や、莫大な賠償金の支払命令などが出されていた。これによりドイツの国際社会での地位は地に落ちており、国内の経済は最悪の状況にあった。これをアメリカが支援していたことでドイツはギリギリ成り立っていたが、その支援も世界恐慌によって絶えてしまった。こうして荒れに荒れたドイツに現れたのが、アドルフ・ヒトラー率いるナチス党だった。ヒトラーは国民の不満を利用し支持を集め、政権



## Ⅶ 参考文献

- ・阿部晃平, 2020, 中世の学問観と、現代の「文系・理系」, <https://rikkyo.repo.nii.ac.jp>
- ・大口 邦雄, さんこう社, 2014, 『リベラル・アーツとは何か その歴史的系譜』
- ・隠岐さや香, 星海社, 2018, 『文系と理系はなぜ分かれたのか』
- ・中村正史, 『「文理分けは日本だけ」は本当か? 隠岐さや香・名古屋大教授に聞く』, <https://www.asahi.com/edu/a/article/13850303>
- ・リベラルアーツガイド, 『文系・理系とは 日本や海外の区別と歴史的な変遷をわかりやすく解説』, <https://liberal-arts-guide.com/liberal-arts/>
- ・リベラルアーツガイド, 『リベラルアーツとは 古代の起源から現代の役割までわかりやすく解説』, <https://liberal-arts-guide.com/liberal-arts/>
- ・吉見俊哉, 岩波新書, 2022, 『大学とは何か』
- ・吉見俊哉, 集英社, 2016, 『「文系学部廃止」の衝撃』

(Bachelor)を得ると、学位は専攻した科目により「BA」(Bachelor of art)か「BS」(Bachelor of science)のどちらかになる。artは、日本語での意味の「芸術」という意味だけでなく、英語ではart=「人間が作り出したもの」といった意味を持つ。そこから、人間の社会活動に関わる文系学問と、自然を科学する理系学問との区分が、アメリカでもされると考えられる。しかし、現代の学問分類は、海外にも国内にもあるこうした文系・理系学問の区別にとどまらず、学問領域の増加からも分かるように、その区別に当てはまらない領域も増えてきている。文系・理系の枠を超えたりベラルアーツ、いわゆる「教養」を重視する考えが広まり、学際系の学部が大学でも多く設置されている。

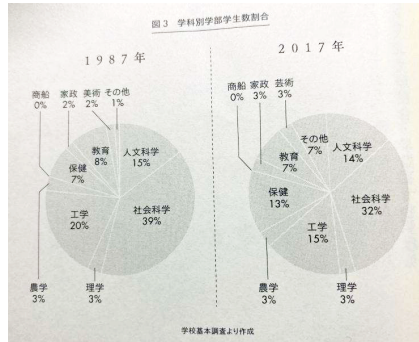


図6 【学科別学部学生数割合の推移】  
(隠岐さや香, 星海社, 2018, 『文系と理系  
はなぜ分かれたのか』, p.199 より)

## VI おわりに

学問は古代ギリシャの哲学を起源とする、人間の限りない知的探究心から誕生し、発展してきた。文系・理系の概念は単なる区分ではなく、古代ギリシャの時代から受け継がれてきた知の証であった。文理概念の誕生はルネサンスが与えた影響は大きく、経済学、社会学を始めとする新たな文系学問が探究されたこと、これまでは軽視されていた理系学問の分野の発達したことによって、大きく学問が発展し、専門性が高くなったことが背景にある。文理概念と大学の歴史は密接な関係にあり、大学の歴史もまた、社会情勢の変化と共に築かれてきた。日本での文理概念は、大学の近代化の波を受けて西洋から持ち込まれ、学校制度や官僚制度の改革を通して日本社会に根付いていった。これからも時代が進むにつれて、人間は知を探究し、新しい学問分野は増えて続けていく。その中で、文理の区分のみならず、学問をより分かりやすく体系的に整理するために分類し、変容していくことが重要だと考える。

える。日本もその例外ではなく、ドイツの先進的な教育制度に衝撃を覚え、近代化と共に教育改革が起こった。学問を細分化し、専門で研究するという考え方は東アジアにはなく、西洋の学問分類は日本にも取り入れられた。その中で、文系・理系の概念は学校制度や官僚制度の改革を通して、少しずつ世に広まっていった。すべての分野を「文」「理」と二分類する表現が明確に見られるのは、1910年代のことだ。中等教育について定めた第二次・高等学校令(大正七年勅令第三八九号)の第八条に「高等学校高等科ヲ分チテ文科及理科トス」との文言が入る。文科は法、経済、文学、理科は理、工、医という区分がされた。これ以降、大学入学試験の準備段階で、文系志望・理系志望に二分する方式が定着していく。ただ、今のように分かれるようになったのは1970年代に高校生が増え、受験戦争が激しくなった頃からで、そこから文理分けが顕著になっていった。しかし、同時期の欧米圏の大学入試制度では、ここまでの徹底は見られていない。では、なぜここまで日本に根強く文理観が根付いているのだろうか。それは、日本は近代化を急ぐ中で、官僚を文官(行政において法務に携わる)と技官(殖産産業や土木公共事業に関わる)に分け、大学はそのための選抜機関として機能していた、ということがある。そのため、中等教育にも文科と理科という区分けがされ、大学入試では文理分かれて受験し、その後の仕事においても大学で何を専攻したかによって、職務の内容が異なっていた。このようにして、日本社会に文系・理系の概念が浸透していったのだ。

## V 現在の日本と海外の「文・理」観

日本では高校での文理選択から、就職まで、社会全体に「文・理」観が浸透しているが、海外でも文系・理系に近い区別がある。隠岐さや香(2018:pp.4-5)は、文系・理系の区別は、欧米圏で1960年代以降、使用頻度は増えていると述べている。HSS(humanities and social sciences)とSTEM(science, technology and medicine)だ。日本語に訳すと、人文社会系と理工医系となる。欧米圏では、日本の文系・理系といった二分法ではないものの、学問を人と自然のどちらが主体となるかで、大まかに分かれている。例えば、アメリカの大学や大学院を卒業して授与される学位には2種類ある。「A」(artの略)と「S」(scienceの略)がつくものだ。大学を卒業し、「学士」

になったのであった。文系的学問と理系的学問は、ルネサンスを機に分化を深め、専門的に研究されるようになった。現代に繋がる文理概念はこの時誕生したのだ。

## IV 近代的な大学の誕生と日本の近代化

### 1 近代的な大学の誕生

#### (1) 近代ヨーロッパ—大学改革と近代化

19世紀、ベルリン大学の誕生によって、ドイツは同大学をモデルに大学改革の波を広げていく。ベルリン大学はフンボルトによって創立された近代的な大学であった。ゼミナールや研究室を始めとした、学生に主体的な学びを求める近代の大学スタイルは、現代の大学に受け継がれている。また、大学も古代ギリシャ以来のエリート養成機関から、国民国家による人材養成機関へと変わるなど、大学の位置付けの変化も起こった。

#### (2) 近代ヨーロッパの学問分類

そのような近代の大学における学問を、カントは「諸学部争い」で大学を神学部、法学部、医学部という上級学部と哲学部という下級学部に分けた。カントは、哲学こそが諸学の中で勝る学問とし、学問は本質を探求するものだが、哲学は本質的なそのものについての探求を目的としていると述べている。

古代ギリシャまで遡り、学問の始まりは「哲学」が起源であった考えると、哲学が持つ学問的価値の重さを実感できる。カントを始めとした学者達は哲学の重要性を訴え、その後、ニューマンらが実践的な知識が必要とされる時代において、文学、理学は、哲学を実践するのに最善の分野とし、哲学部から文学部、理学部へと学部名称が変化していった。近代では、ルネサンス期の文理概念の擁立から更に、大学での学部名称が変化から見て取れるように、国民的な知性として正典化されていったと考えることができる。

### 2 日本の近代化と学問観の形成

日本での文系・理系と分けるような捉え方は、明治時代の教育改革が始まりである。ルネサンス期以後、ベルリン大学の誕生によって大学は一気に近代化の波を迎

## 2 学問の発展

### (1) 文系的学問の発展

ルネサンスの影響で、当時の人々が社会を神が創ったものではなく、創ったのは人間であるとみなすようになった。そのような社会に対する認識の変化から、社会について、神ではなく人間から論じることができるようになり、社会科学的な領域が発達した。アダム・スミスの経済思想や、ホッブズ・ロック・ルソーを始めとする社会契約思想の誕生によって、政治学、経済学の礎となった。さらに市民革命や産業革命を経験する中で、人間の行動や社会構造について考える社会学や心理学、人類学などその他の社会科学系学問も成立していった。

### (2) 理系的学問の発展

これまで、数学を始めとした現代の理系分野は神学、哲学などの文系分野に比べ、軽視されていた。前述したように、数学を使って自然を解き明かすことが出来ないとの見方が一般的であったからだ。

しかし、ルネサンス期に入ると、少しずつ大学で採用されていたアリストテレス主義を揺るがす発見が出てくる。職人的技術に興味を持ち、彼らの仕事を研究する知識人が登場したからだ。16世紀以降、コペルニクスの地動説やガリレオの天文学的発見などが起こったのはその代表例だ。この時代によく、自然は数学によって解明できるという観念が広まったのである。ガリレオは数学的な重要性を訴えており、数学を共通言語とする理工系の起源とも言える。こうして、スコラ哲学とは異なる、理系的な学問が研究され、発展していくことになった。そして、現代では理工系と一纏めにされる理系分野の中でも、ルネサンス期に最初に発達したのは自然科学で、その後には工学が発展した。工学のような「技術」の領域は、手作業を伴う職人的領域と考えられ、学問としての研究は遅れていた。工学は、18世紀末の産業革命によって国家が技術者の育成を求めるようになったことで、学問として発達するよう

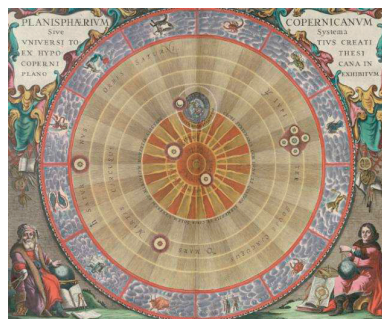


図5 【知識人の登場と理系的学問の発展】  
(アンドレアス・セラリウス、  
「コペルニクスの天空図」より)

である。中心に哲学、神学があることから、当時それらの学問(スコラ学)が特別視されていたことが分かる。自由七科は教科書化されて中世に伝わり、それが中世の教養教育となっていた。中世では古代ギリシャの学問分類が継承され、キリスト教と結びつき、より細分化された。現在より学問分野は少ないものの、学部の誕生によって文系的・理系的なものが大まかに分かれて学ばれていたことが分かる。それと同時に、リベラルアーツの考えも古代ギリシャから取り入れ、国民が一般教養を身につけることが重要とされたのだ。

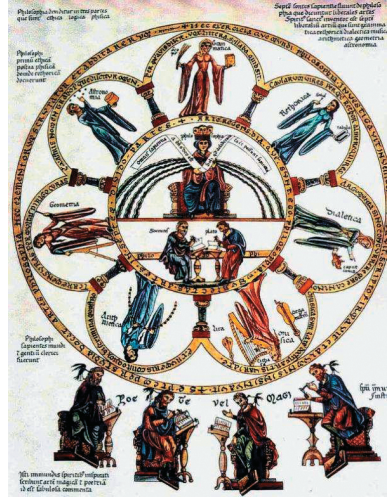


図3 【7 自由学科について表している細密画】  
(ヘルラート・フォン・ランツベルク、  
『愉楽の庭』の挿絵より)

### Ⅲ ルネサンス期における学問の発展と文理概念の確立

#### 1 近世ヨーロッパルネサンスが学問に与えた影響

文系的学問、理系的学問という区別がはっきり生まれ出すのが、15世紀以降のルネサンスである。ルネサンスとは、これまでのキリスト教的な世界観から脱し、古典古代の文化を復興させようとする運動である。ルネサンスは人間中心主義であり、抽象的な神学、スコラ哲学への反発から、実践的知識が重視されるようになった。ルネサンス以降、中世の大学区分の一つである学芸学部の名称は哲学部、さらにその後文学部、理学部に変化している。この変化は現在の文系・理系という区分がルネサンス期を通して確立されていったことを示している。



図4 【当時の大学の授業風景】  
(ベルリン国立版画館所蔵、  
『アリストテレスの倫理』の挿絵より)

多く流入した。その後再びヨーロッパの人々によって学ばれ、翻訳されるようになり、当時の学問世界において非常に大きな影響を与えた。こうして、イスラム世界の古代ギリシャ知識を学ぶ中で結成された組合組織が大学の起源となり、多くの大学がヨーロッパで生まれた。

## (2) 中世ヨーロッパの学問分類

大学の誕生と同時に、大学の中では学ばれる学問分野の区分が生まれていった。これらの学問は古代ギリシャで研究されていた学問に由来している。神学部は命題集、法学部はローマ法大全、医学部はピポクラテスやガレノスの古典という、ヨーロッパに再輸入され、翻訳された古代ギリシャの書物を使って学ばれていたことから

も、古代ギリシャが学問の基礎を築いたと言える。また、大学の上級学部であり、威厳のある専門職業に直結した神学、法学、医学が重視され、下級学部は下に置かれるなど、学問の間にヒエラルキーが存在していた。この頃の大学では、数学が軽視されており、アリストテレスの考えに従って、自然現象は複雑すぎて記述できないと考えられていた。当時は現在の科学技術・工学と言えるようなものではなく、職人的技術に限られており、いわゆる理系分野は軽視される傾向であった。それら下級学部は自由七科と言われ、リベラルアーツ(教養)の考えの元となる。当時のリベラルアーツに対する考え方は12世紀後半に描かれた細密画から読み解くことができる。これは7自由学科のリベラルアーツについて絵解きしているもので、円状に7科(文法学、修辞学、論理学、算術、幾何、天文学、音楽)があって、その真ん中に「哲学」と「神学」が描かれている。古代ギリシャのパイデア(教養)に、中世ヨーロッパで「円環」という概念が融合し、七つの科目がすべて繋がって一つの教養を作る、といった意味

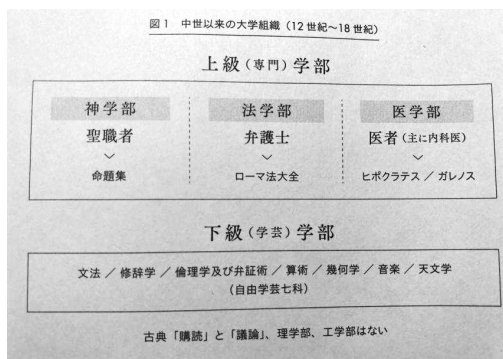


図2 【中世以来の大学の学問分類】  
(隠岐さや香, 星海社, 2018,  
『文系と理系はなぜ分かれたのか』, p.16 より)

古代ギリシャは大学という概念は存在してなかったものの、プラトンによって設立されたアカデメイアなど、知的機関は存在しており、算術、幾何学、天文学等の教養を学ぶ場となっていた。政治の直接的な担い手となる市民に教養を身につけさせることが重視されていたのだ。このように、古代ギリシャで誕生した哲学を基礎に学問は体系化され、時代と共に細分化していき、各学問分野として発展していく。

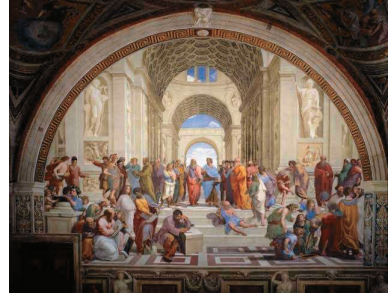


図1 【知を探究する古代ギリシアの哲学者たち】  
(ラファエロ・サンティ、「アテネの学堂」より)

## (2) 古代ギリシアの学問分類

古代ギリシャでも学問の分類はされており、「職人らが学ぶ技術的、職業的な知識」と「生産活動から解放された市民が学ぶ、パイデア(教養)」で区別されていた。しかし、古代ギリシアの学者は、基本的に、人間自身や国家について論じた哲学(今の文系分野)や、自然を見て論じた自然哲学(今の理系分野)を、区別せず一体として研究していた。古代ギリシャでは、様々な分野の学問の基礎が築かれたが、学問領域の中に文系・理系という分け方は存在しなかったと考えられる。

## 2 中世

### (1) 中世ヨーロッパ-古典復興と大学の誕生

古代ギリシャ時代の学問は哲学を中心とした抽象的な知識が多く、ローマの時代には実学的な知識が社会で必要とされ、古代ギリシアの知識は忘れ去られていった。ヨーロッパに再び古代ギリシアの知が取り入れられるのは、1031年にイベリア半島で後ウマイア朝が滅亡し、キリスト勢力による失地回復運動(レコンキスタ)が始まってからである。古代ローマでの知識はイスラム帝国に受け継がれ、発展させられていた。レコンキスタによって先進的なイスラム文明を目の当たりにした西洋人たちは、イスラム文化を取り入れようとした。十字軍の遠征による人の移動の増大、商業の発達も重なり、イスラムを経由してギリシアの文化や哲学の古典がヨーロッパに



## 2 研究目的

文系と理系の研究目的について、吉見俊哉(2016:p.105)は、次のように整理している。

文系(価値創造型)…その目的自体を支える価値観を再考したり、創造したりする実践  
理系(目的遂行型)…目的がすでに設定されていて、その目的を実現するために役立つ

文系は既存の目的を批判し、新しい目的を創造するのに長けている(例 目的地まで最速で行く必要性)に対し、理系は既存の目的から、その目的を実現させることに長けている(例 目的地まで最速で行く方法)ということだ。理系は結果を出すことが目的のため、短期的に役に立つ学問と言える。そのため、文系は役に立たないとの評価もあるが、既存の価値観を自明視せず、批判し、新しい価値観を創造していくという文系も長期的に見れば役に立つ学問であり、学問に優劣はつけられない。

## Ⅲ 古代から中世における学問分類の変遷

### 1 古代

#### (1) 古代ギリシャ哲学の誕生と学問の発展

学問の起源は、古代ギリシャに遡る。諸説あるが、最初の大学と言われるパリ大学を始めとした中世の大学組織の結成も、西洋世界では忘れられていた古代ギリシャの知識が12世紀ルネサンスによって再輸入されたことがきっかけである。古代ギリシャの人々は「世界はなぜ存在しているのか」というような世の中の真理を探究した。そこからソクラテス、プラトン、アリストテレスといった人物を中心に哲学が誕生した。古代ギリシャにおいて、学問が発展したのは、古代ギリシャ社会が奴隷制によって成り立っており、労働から解放された自由な市民と労働に従事する奴隷に区別されていたからである。古代ギリシャでは、学問ができるのは労働から解放された、生活に余裕のある人々であり、彼らが生活の余裕を利用して教養を身につけていた。そのことは教育の場である学校の語源からも見て取れる。学校は英語で school(スクール)だが、その言葉はラテン語の schola(スコラ)「学校」から、そのラテン語 schola はギリシャ語の skhole(スコレー)「余暇」からできた言葉である。また、

## 令和4年度社会探究ゼミ優秀作品

# 文理の概念はどのように生まれたのか —大学の歴史から辿る学問の発展—

高三B 都築 勇翔

## I はじめに

現在、日本の多くの高校では文理選択があり、文系コース・理系コースと二分される。その選択は、大学の受験科目や進学・就職の進路という重要なものとなっており、「文系・理系」という概念は日本社会に強く根付いている。また、日本では文系廃止論を唱える政治家が現れるなど、文系が学問的に軽視される傾向にある。そのような学問の分類と見方の差はどのように生まれたのか。そこには、大学の歴史が深く関係しており、学問の発展と共に文理観は形成されてきた。これらの概念が誕生したのは、日本の大学制度が西洋の大学制度を基にしていることや、明治時代以降の教育政策が影響を与えたことなどが背景にある。そして、現在は文理の区分を無くす文理融合型教育を導入する大学が増加したり、科学技術の発展や時代の流れによって新しい学問が次々と生まれたりと、学問分類は時代に合わせて変遷している。そこで、本レポートでは、大学の歴史的背景から、大学における学問分類の変遷と文理概念の誕生、そして、古代ギリシャで端を発した学問の発展の系譜を明らかにする。

## II 文系・理系とは

### 1 研究対象

大学もしくは大学院で研究される学問は一般的に、文系学問、理系学問と大きく分かれている。文系は人文社会科学系の学問、理系は自然科学系もしくは理工医学系の学問とされている。文系学問は主に人間の活動を研究の対象としているのに対し、理系学問は主に自然界を対象としている。そこには研究対象に「人間の社会活動」が関わっているかどうかの違いがある。

南 窓 六十二号

編集 高校 兼田英翔 中学 山田光優  
文化委員会

題 字 石田泉城

発行者 南山<sup>高等</sup>中<sup>等</sup>学校男子部生徒自治会

発行日 二〇二四年 四月 三〇日

発行所 (〒四六六一〇八三八)名古屋市中区和区五軒屋町六  
TEL(〇五二)八三二一六四五

印刷 名古屋市中種区千種二一―二八  
株式会社ウエルオン